

# 観光英語（８）：神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語

福島 一人

## Tourism English ( 8 ) : The English Found on Signs in Kamakura City, One of the Most Famous Locations in Kanagawa Prefecture

Kazundo Fukushima

### Abstract

Because the Tokyo Olympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's famous places have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to them.

This paper is expected to contribute to the benefits of the people who write English signs on behalf of ordinary or general foreign tourists.

It is based on the papers, Fukushima ( 2011.1 ) — ( 2015.1 ), and will examine the English signs found in Kamakura which is said to be one of the most visited locations in Kanagawa Prefecture. In Fukushima ( 2015.1 ), the English signs are classified into two categories, one for general notices and the other which describes characteristics of the spots concerned.

This paper specifically examines the signs which indicate the general introductions of the famous places concerned, such as *Daibutsu*, *Tsurugaoka Hachimanguu*, *Hase-dera*, *the Kamakura Gozan* ( the five principal Zen temples of Kamakura ), and *Meigetsu-in*. Before showing those examples, the orthography of the English letters to which Japanese words are transcribed and the suggestions of the introductory notes for the use of typeface, brackets, parentheses etc. will be given. They concern the examples of signs seen on the streets, in public transportation, and commonly accessed places by tourists.

### 1. はじめに

2020年に東京でのオリンピック開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の名所・旧跡においては、特に国際語である英語案内板1)の質的2)、量的充実が望まれるようになっている。このことは、日本人観光客の増加にもつながる。

本稿は、福島(2011.1)、(2011.7)、(2012.7)、(2013.1)、(2014.1)、(2014.7)、(2015.1)と同様、一般観光客に向けての英語案内板作成者のために「事例報告」として、綴字面などの凡例、および、内容について表記上の提案を行う。綴字についてはこれまでと同様、ワープロの「ローマ字入力」の綴り方を基本とする。

まず、福島(2015.1)に準じ、綴字面などの検討を試みる。これには、神奈川県以外の地域、鉄道、道路などの例が含まれ、日本の事物の英文字表記について、日本語を学習する外国人の便宜を考慮

しての提案が行われる。

そして、鎌倉の観光名所である高德院大仏、鶴岡八幡宮、長谷寺、鎌倉五山（建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺）、明月院で見られる案内板について、対応する日本語説明との意味面、文体面との異同に着目しながら検討を加える。尚、当該案内板は、歴史や特筆すべき事項をまとめた、当該名所を表題とするいわゆる「総合案内板」に限定する。

検討を加える案内板には、道路、鉄道に見られるものも含む。画像は、すべて、本稿執筆者が撮影したものである。

本稿においても、現地の案内板などの問題点にはアンダーラインを引き、追加修正などの提案は太字で記す。

## 2. 日本語の英文字表記

### 2.1 意義

発音、意味など、日本語学習する外国人の便宜を意識したものにするべきである。

日本語の英文字表記は外国人だけでなく、現地に初めて訪れる日本人にとっても重要である。

例えば、1の道路上の案内板、神奈川県外である山口県の地名、「特牛」は、現地の住民でない限り、「こっとい」と読むことは不能であろう。特に、瞬時に判読することが必要な運転手にとって、道路上の案内板の英文字表記は、振り仮名を加えることがスペース上困難であることが多く、日本人にとっても振り仮名に相当するものとなる。



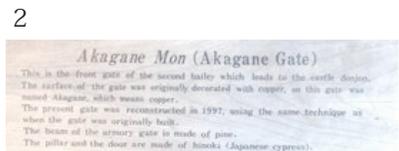
### 2.2 表記上の凡例、構成素の説明方法についての提案

福島（2015.1）では、[ ]、（ ）の使用などを含めた表記上の凡例についての提案を挙げた。これらは以下の通りである。神奈川県外に見られたものは県名を明示して挙げる。

#### 2.2.1

日本語の、地名・人名・駅名などの固有名詞構造は普通のローマン体（以後「並ローマン体」）、それ以外の事物を表すものや普通名詞構造はイタリック体で記す。

2は小田原城内の「銅門（あかがねもん）」の案内板である。建造物をイタリック体で表示している実例である。2.2.4で挙げるが、説明部分は（ ）を用いている。



#### 2.2.2

地名・人名などであっても、それらが名詞構造の構成素となっている場合、イタリック体で記す。

3は藤沢市江の島内エスカレーター乗り場に見られる。「サムエル・コッキング苑」を“Samuel Cocking Garden”としている。人名が庭園名の構成素となっている。2.2.4に従い「苑(えん)」が「庭園」であることを明示し、“Samuel Cocking En [Garden]”とすることを提案する。



2.2.3

道路標識や案内標識の案内板、案内板中の説明文の表題は大文字で始めることを原則とする。強調の度合いを強めたい場合、全て大文字でも構わない。視覚上の効果を狙い混在させることもある。

4と5は、神奈川県横須賀市の通称「ドブ板通り」に見られる酒場のものである。4は、最重要である店名を“GEODANA”と全て大文字で、補足部分を“Lounge”、“Bar & Club”と大文字で始め小文字を続けている。一方、5は、店名を“Dublin Dock's TaveRn”と大文字で始め小文字を続けているが“Tavern”と綴るところを大文字の小活字“R”を用い“Tavern”としている。そして、補足部分は“IRISH PUB DUBLIN DOCK'S TAVERN IRISH PUB”と、全て大文字を用いている。2.2.2に従い、これらをすべてイタリック体で記すことを提案する。



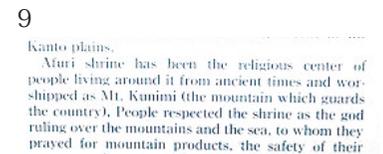
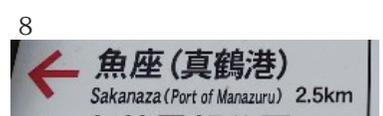
6は広島県宮島厳島神社のものである。厳島神社が「国宝」かつ「世界遺産」であることを文中でも全て大文字で記している。日本人には綴字上不自然に感じられるかも知れないが、現地で見られた米国人観光客やチェックを受けたMartin氏によると、案内板上では「不自然さ」を感じないとのことである。



2.2.4

[ ]は「交換可能」、あるいは「1語による説明」とし、( )は「2語以上による交換可能、あるいは説明」とする。

7はJR北鎌倉駅に見られる。「円覚寺」を“Engakuji-Temple”としている。福島(2015.1)で観光庁指針の「清水寺」“Kiyomizu-dera Temple”について“Kiyomizu-dera [temple]”とすることを提案した如く、“ji”が「寺(じ)」であることを明示し、“Engaku-ji [temple]”とすることを提案する。8は真鶴三石(みついし)付近の総合施設前で見られる。“Sakanaza”を“(Port of Manazuru)”と説明している。但し、英文字表記の提案を含め、施設名であるため、“Sakanaza (port of Manadzu[du]ru)”とすることを提案する。9は説明文中で( )を用いている。大山阿夫利神社(おおやまあふりじんじゃ)に見られる。「伊



勢原ライオンズクラブ」による。説明文中で、国見山を、“(the mountain which guards the country)”と説明している。8、9に倣い、2語以上の説明は、( )で囲うことを提案する。

### 2.2.5 ハイフンの使用

複合名詞構造を意味に基づき分節し、ハイフンで連結させる。

福島 (2015.1) では、京都清水寺、鎌倉建長寺などの例を挙げ、日本語を学習する外国人に有益と思われるハイフンの使用を提案している。特に、普通名詞の意味を明確にさせるために使用することを提案している。

#### 2.2.5.1 名詞＋名詞

10は京浜急行の駅名「川崎大師（かわさきだいし）」の表示である。

地名「川崎」と、高僧を本尊とする寺「大師」との複合名詞構造である。10に従い、駅名は、全体をローマン体とし、それぞれをハイフンで連結させることを提案する。

10



#### 2.2.5.2 名詞＋格助詞＋名詞

福島 (2015.1) と同じく、例えば、城郭の「二の門」は、“*ni-no-mon*”と表記することを提案する。「の」は「門」の内容を限定する格助詞である。画像2「銅門（あかがねもん）」の説明文中の「二の丸」は、単に“This is the front gate of the second bailey…”とするだけでなく、日本語の英文字表記も入れ、“This is the front gate of *the ni-no-maru [second bailey]*…”とすることを提案する。

#### 2.2.5.3 接頭語[辞]＋名詞 名詞＋接尾語[辞]

福島 (2015.1) は、福島 (2013.1) における福井県丸岡城で見られる案内板「人柱お静」中の「お静」の英文字表記を修正している。主要語の女性名「静」を大文字で始め、副次語である接頭語「お」を小文字で記し、表題や文頭でない限り、“*o-Shizu*”とすることを提案している。また、Hearnが*Kwaidan*の文中でも“*O-Tei*”や“*Nagao-Sama*”としていることを挙げ、副次語である接頭語[辞]や接尾語[辞]を小文字とし、“*o-Tei*”、“*Nagao-sama*”とすることを提案している。本稿でも提案する。

### 2.3 英文字表記

一般的に案内板の英文字表記は、ローマ字表記と呼び、NAVERまとめ（以後、「新ヘボン式」）、文部科学省（以後、「文科省」）に従っていることが多い。

#### 2.3.1 「お」「おお」「おう」

子音に続くものも含めた「お」、「おお」、「おう」を中心に検討を加えたい。「おお」、「おう」などは、「新ヘボン式」、「文科省」共、「長音」と呼ぶが、本稿では「おー」などと明確に区別し、「二重母音」と呼ぶ。

11は神奈川県大磯（おおいそ）町を表す道路の、12はJRのものである。11は“*Oiso*”としている。12は“*Ōiso*”とし、“*O*”の上に“*ー*”を加えている。JRに見られるこの表記について、上森鉄也 (2012) は、もともと「ヘボン式」としている。ヘボン J.C. 松村明解説 (1974) には、1886年のヘ

11



ボンの主張が記されている。Introduction 中で、「おお」「おう」について、子音に続く場合も含め、“ō”と表記している。本稿では、これを「旧ヘボン式」と呼ぶ。

「おお」は「おう」と同じく、「新ヘボン式」では“o”のみ、あるいは“oh”としている。「文科省」では“ō”としている。但し、これは、「旧ヘボン式」では“ō”としている。11では、「小田原（おだわら）」の「お」と同一綴りであり、同じ発音をされる恐れがある。

しかし、「文科省」に準じているものを見ることもある。14は鎌倉高德院大仏に見られる案内板である。「大野五郎エ門（おおのごろうえもん）」を“ÔNO-GORÔEMON”、「浄光（じょうこう）」を“JÔKÔ”としている。

総じて、道路上の案内板は「新ヘボン式」、JRのものは「旧ヘボン式」に従っている、と言えよう。

繰り返すが、「新ヘボン式」には問題がある。11の「おだわら」の「お」、「おおいそ」の「おお」、13の「こうづ」の子音に続く「おう」が、“o”とされ、同一に綴られるからである。英文字表記は振り仮名に相当するものである、それぞれ差別化し、“o”、“oo”、“ou”とするべきである。

JRについては、「国府津（こうづ）」を15、16のように駅でも、車内でも“Kōzu”としている。「文科省」によると、「おう」は“ō”と表記されるはずである。小学生向け教材の文理編集部（2015）や小学教育研究会（2015）もこれに準じている。しかし、一般的には、“ō”とされることが多い。「大磯（おおいそ）」や「国府津（こうづ）」の子音に続く「おお」と「おう」が同一綴りであるが、“oo”、“ou”の如く、区別して表記するべきと思う。

一方、例えば「おう」について、道路やJRではない、現地の案内板などには、「新[旧]ヘボン式」

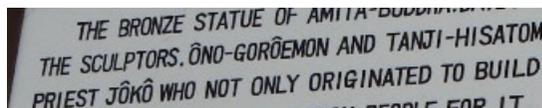
12



13



14



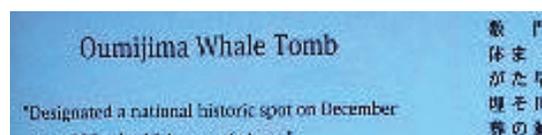
15



16



17



や「文科省」と異なり、本稿で提案するように、“ou”としている例も見られる。

17は山口県長門市青海島（おうみじま）内の「鯨墓」の案内板であるが、“Oumijima”としている。また、2015.1.8にテレビ朝日で放映された、ドラマ「最強の名医」の中で、架空の「堂上総合病院」を“Dougami General Hospital”としている例もある。「新[旧]ヘボン式」にも「文科省」にも準じていない。

18は藤沢市遊行寺近くに見られる。2015年になって作成されたものである。

興味深いことに、交差点上の案内板表記では、「遊行寺（ゆぎょうじ）」一般の道路上のもの如く、“YUGYO-JI”と、「ぎょう」を“GYO”と表記している。道路上のものに合わせたのであろうか、9の案内板の説明文中でも、“Yugyo-ji”としている。しかし、説明文中の、正式名称「清浄光寺（しょうじょうこうじ）」は“Shoujoukou-ji”、“ou”と綴られている。

子音に続く場合も含め、「お」に相当するものは“o”、「おお」は“oo”と、「おう」は“ou”と表記することを提案する。3)

18



### 2.3.2 「母音＋」

本稿では、「おー」などを長母音と呼ぶ。振り仮名として使用する、平仮名は表音文字である。これまでの調査では、「おー」のような長母音は日本語名詞構造には、外来語が組み込まれている場合にしか見られない。福島(2015.1)

p.74では、ローマ字入力とは異なるが、母音に“h”を加えることを提案している。福島は、「ハイフン」“-”は音節区分の標識とし、長母音の標識としては使用しない、とする。

子音に続く「えー」の例を挙げる。19は神奈川県真鶴に見られる、「ケープ真鶴（まなづる）」という総合施設の手前1.3kmに見られる。英語圏でない人間にとって“Cape”が未知の語である場合、「カペ マナズル」と発音される可能性がある。全体が施設名であるので、後述の「づ」の表記上の提案も含め“*Kehpu Manadzu [du] ru*”とすることが考えられる。

しかし、「ケープ」は外来語であるが、国際語である英語である。そのまま、“Cape”を使用し、“*Cape Manadzu [du] ru*”とするのも、作成者の「英語を使用したい」という意図に沿うもので、実害が少くないと思われる。イタリック体が施設名を示すという前提があるならば、地名としての「真鶴岬」との混同が避けられると思われる。このことは、2.3.5の「外国語が構成素の場合」で提案する。

### 2.3.3 「ず」「づ」

現在、殆どすべての案内板では、日本語の「ず」や「づ」は、一律に“zu”と表記されているようである。福島(2015.1) p.75では、宮城県松島町「瑞巖寺」や京都府「舞鶴引揚記念館」などに見られた案内板の例を挙げ、これらの発音を区別するべきとし、それぞれ、“zu”、“*dzu [du]*”と表記することを提案している。「づ」については、発音を優先し、ローマ字入力の際の文字“*[du]*”を補足して使用している。本稿でも同じ提案を行う。

19



### 2.3.4 その他

福島(2015.1) p.76では、岡山県「備中松山城」について、現地の案内板では“Bitchu Matsuyama Castle”と表記していることに対し、“**Bicchuu ...**”とすることを再提案している。本稿でも同じ提案を行う。

20は横浜三溪園で見られた案内板のものである。「JR 関内駅」を“Kannai Sta.”と表記している。ローマ字入力では、“Kannnai...”となる。鼻音「ん」と「な行」音を区別するために、「文科省」に従い、“**Kan' nai ...**”とすることを提案する。ローマ字入力する際の英文字を基本とする本稿の提案の例外的なものである。

20



### 2.3.5 外国語が構成素である場合

2.3.2で、地名ではなく、施設名である「ケープ真鶴」における「ケープ」の表記を“**Cape**”としても、イタリック体の使用により、実害は生じないとした。19の如く、21は神奈川県江の島内の、展望灯台を「江の島シーキャンドル」“Enoshima Sea Candle”としている。これをイタリック体で表記し、“**Enoshima Sea Candle (lighthouse observatory)**”とすることを提案する。一部が日本語普通名詞である「サムエル・コッキング苑」については、「苑」を“**En**”と表記し、“**Samuel Cocking En [ Garden ]**”とすることを提案する。

21



## 3. 鎌倉市の案内板

いわゆる、「流しのタクシー」はつかまらない。また、乗用車で名所を巡るのはとても苦勞させられる。JR 鎌倉駅か北鎌倉駅からバスを利用する。道路が渋滞しバスが非常に遅れることが多いので、JRや江ノ電を利用した後は徒歩で移動する、と考えたほうがよい。

鎌倉で集客数が多いと思われる、高德院大仏、鶴岡八幡宮、長谷寺、鎌倉五山（建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺）、明月院に見られる全体像を説明する案内板に検討を加える。

京都の名所と比較すると、面積が狭く、案内板の数は少ないように思われる。

### 3.1 大仏

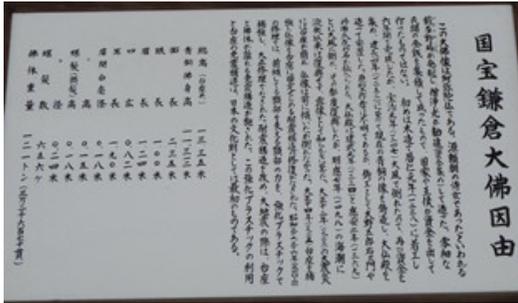
江ノ電長谷駅から徒歩約15分のところにある。

正式には、「高德院大仏」であるが、単に、「大仏」と呼ばれることが多い。外国人観光客に最も人気がある。22の如く、遠足の小学生も混じり、2014.7.3当日も大変な混雑であった。西洋人観光客の他、かつてタイ王室が来院したことにより、タイをはじめとする仏教国からの観光客が多い。

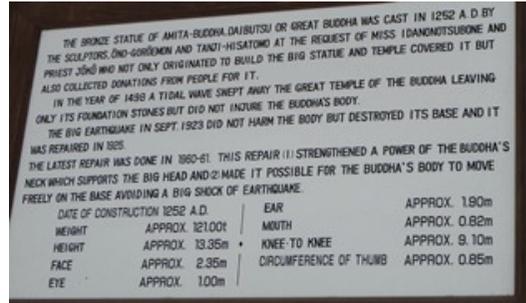
22



23



24



現地で見られる、「大仏」の歴史などを記す、23の日本語、24の英語の総合案内板は「高德院大仏」が作成したものと思われる。

24の如く、英語案内板は、すべて大文字で記されている。しかし、長い文章の表記は読みづらい。説明文については、“The bronze statue of Amita-Buddah....”の如く通常の表記に従うことを提案する。

24は以下の通りである。

THE BRONZE STATUE OF AMITA-BUDDAH, DAIBUTSU OR GREAT BUDDAH WAS CAST IN 1252 A.D. BY THE SCULPTORS. ÔNO-GORÔEMON AND TANJI-HISATOMO AT THE REQUEST OF MISS IDANONOTSUBONE AND PRIEST JÔKÔ WHO NOT ONLY ORIGINATED TO BUILD THE BIG STATUE AND TEMPLE COVERED IT BUT ALSO COLLECTED DONATIONS FROM PEOPLE FOR IT.

IN THE YEAR OF 1498 A TIDAL WAVE SWEEP AWAY THE GREAT TEMPLE OF THE BUDDAH LEAVING ONLY ITS FOUNDATION STONES BUT DID NOT INJURE THE BUDDAH'S BODY.

THE BIG EARTHQUAKE IN SEPT. 1923 DID NOT HARM THE BODY BUT DESTROYED ITS BASE AND IT WAS REPAIRED IN 1925.

THE LATEST REPAIR WAS DONE IN 1960-61. THIS REPAIR (1) STRENGTHENED A POWER OF THE BUDDAH'S NECK WHICH SUPPORTS THE BIG HEAD AND (2) MADE IT POSSIBLE FOR THE BUDDAH'S BODY TO MOVE. FREELY ON THE BASE AVOIDING A BIG SHOCK OF EARTHQUAKE.

DATE OF CONSTRUCTION	1252 A.D.	EAR	APPROX. 1.90m
WEIGHT	APPROX. 121.00t	MOUTH	APPROX. 0.82m
HEIGHT	APPROX. 13.35m	KNEE TO KNEE	APPROX. 9.10m
FACE	APPROX. 2.35m	CIRCUMFERENCE OF THUMB	
EYE	APPROX. 1.00m		APPROX. 0.85m

(高德院大仏作成)

“ORIGINATE”は、通常、“to”を続け「…し始める」とはしない。“BEGAN”あるいは“STARTED”とするべきである。“COVERED”は、文法的誤りである。能動態となる現在分詞を使用し、“COVERING”とするべきである。“FOR IT.”、“OF”共に冗長である。削除するべきである。“AND IT”を簡略化し、“WHICH”とすることを提案する。「首の強度」と限定的であるので、“A POWER”を“THE POWER”とするべきである。“ON THE BASE”を“ON ITS BASE”とす

ることを提案する。「地震による衝撃を防ぐ」という目的が明確であるので、“AVOIDING A BIG SHOCK OF EARTHQUAKE”を、目的を表すto不定詞の副詞用法を使用し、“TO AVOID LARGE SHOCKS FROM EARTHQUAKES”とするべきである。

英語案内板と独立して設置されている日本語案内板中の、「この強化プラスチックの利用と台座の免震構造は日本の文化財としては最初のものである。」は特筆に値する記述であるが、英語案内板には記述されていない。以下の文を加えることを提案する。

**THIS WAS THE FIRST TIME ANY OF JAPAN'S CULTURAL PROPERTIES WERE MADE EARTHQUAKE-RESISTANT BY USING REINFORCED PLASTIC IN PARTS AND A BASE-ISOLATED STRUCTURE.**

### 3.2 鶴岡八幡宮

JR鎌倉駅から徒歩15分のところにある。観光客が最も多い、と言える。特に正月には混雑する。25は舞殿(まいでん)から見た本宮(ほんぐう)である。本宮へ昇る石段の脇の、鶴岡八幡宮の象徴とされていた大銀杏は、2010年の強風により倒れ、現在は見られない。



現地で見られる、歴史などを記す、26の総合案内板は「鶴岡八幡宮」が作成したものである。英語説明は、次の如くである。

Tsurugaoka Hachimangu Shrine is placed at the center of Kamakura city. Originally, this shrine was established as the tutelary shrine of Minamoto clan in the end of Heian period. Then, Yoritomo Minamoto rebuilt this shrine at the present site in 1180. As Yoritomo strengthened the foundation of his new government, he added and repaired the facilities of the shrine. The main street Dankazura was constructed for the prayer for his wife Masako's delivery of their first child. There are many important cultural assets remaining, and various rituals and ceremonies are held throughout seasons. (鶴岡八幡宮作成)

「源頼義」や「源義家」について述べられていないなど、細部では日本語説明と異なる。

“Tsurugaoka Hachimangu Shrine”は2章の提案に従い、“**Tsurugaoka Hachimangu [ shrine ]**”とすることを提案する。案内板の日本語説明は「鎌倉に八幡宮を祀ったのは、八幡大神が清和源氏の氏神であり、源頼義、義家、頼朝公らが鎌倉を根拠地としたからです。」と、している。最初の英文は、単に現在の所在位置を表しているため、“placed”を“**situated**”とするべきであろう。もし、「置いた」の意味を強調したいならば、“**was placed**”とするべきであろう。“Minamoto clan”は“**the Minamoto clan**”とするべきである。“at the present site”は、「現在の八幡宮の存在する場所」という意味を明確にし、“**at its present site**”とすることを提案する。“The main street *Dankazura*”では、現在も過去も「段葛」が「主要道路」の

26

**鶴岡八幡宮** Tsurugaoka Hachimangu Shrine

鎌倉に八幡宮を祀ったのは、八幡大神が清和源氏の氏神であり、源頼義、義家、頼朝公らが鎌倉を根拠地としたからです。

治承4年(1180)源氏再興の旗を上げた源頼朝公は、直に社頭の整備に取り掛かり、御台所母子の安産祈願のため由比ヶ浜に至る参拝道(現在の段葛)を造りました。

建久2年(1191)には、今日まで続く上・下両宮の姿となり、頼朝公の征夷大将軍の任命拝受が神前にて執り行われました。

境内は国の重要文化財を擁する史跡として、史跡鎌倉にて四季折々繰り広げられる数々の行事の中心となっております。

Tsurugaoka Hachimangu Shrine is placed at the center of Kamakura city. Originally, this shrine was established as the tutelary shrine of Minamoto clan in the end of Heian period. Then, Yoritomo Minamoto rebuilt this shrine at the present site in 1180. As Yoritomo strengthened the foundation of his new government, he added and repaired the facilities of the shrine. The main street Dankazura was constructed for the prayer for his wife Masako's safe delivery of their first child. There are many important cultural assets remaining, and various rituals and ceremonies are held throughout seasons.

意味になる。日本語説明文中の「参拝道」を明確にし、“**The approach to the shrine, which is now known as Dankazura,**”あるいは“**The former main street, which is...**”とするべきである。「安産祈願をするために」という意味を明確にするために、“for the prayer for his wife Masako’s delivery of their first child”は、“**to pray for the health of his wife, Masako, on the occasion of the birth of the their first child**”とすることを提案する。

“assets”でも良いと思われるが、福島は“**properties**”とすることを提案する。「四季を通じて」の意味と思える。“throughout seasons”を“**in all seasons**”あるいは、“**in every season of the year**”とすることを提案する。

### 3.3 長谷寺

27の観音堂に見られる観音像で有名である。「長谷寺」というよりは「長谷観音」という名称で、一般的に知られている。大仏が近く、観光バスの収容台数が多いせいか、大仏と抱合せて訪問する観光客が多い。最近では、六月に入ると、境内のアジサイ見物に訪れる観光客も多い。

現地で見られる、歴史などを記す「長谷寺」を表題とする総合案内板28は「鎌倉市」が作成したものである。英語説明文は日本語のものと内容がほぼ一致している。

27



28



The principle object of worship at Hasedera Temple is the eleven-headed Kannon statues, known to be some of the finest wooden Buddha statues in Japan.

According to temple legend, Hasedera's founder, the Buddhist priest Tokudo, had a pair of eleven-headed Kannon statues carved out of a giant block of camphor that he found in the mountains of Hatsuse in Yamato province (present-day Nara prefecture).

One of the statues became the principal Kannon statue at the Yamato Hasedera Temple, and the other was sent out to sea with a prayer that it would help ease the suffering of mankind. The Kannon statue travelled to Nagaiura on the Miura peninsula (near present day Hatsuse), where it washed up on the beach, Hasedera Temple was built on this location.

The temple's lookout platform offers a spectacular view of the sea near Kamakura, and flowering plants, including over two thousand hydrangeas, can be enjoyed each season throughout the year. (鎌倉市作成)

「長谷寺の本尊」の意味であるので、“principle”を“**principal**”とするべきである。2章の提案に従い、“Hasedera Temple”を“**Hase-dera[-temple]**”とすることを提案する。「観音像」は一つであるので、“Kannon statues, known to be some”を“**Kan’non statue, known to be one of**”とするべきである。“Hasedera’s”

を“Hase-dera’s”と、2.3.4の提案に従い、“Kannon”を“Kan’non”と、“Tokudo”を“Tokudou”と、“Hasedera Temple”を“Hase-dera”と、“was sent out to sea”を“was sent floating out to the sea”とすることを提案する。

「三浦半島の流れ着いた観音像を遷し、建立されたのが長谷寺です。」の意味であるので、“The Kannon statue travelled to Nagaiura on the Miura peninsula (near present day Hatsuse), where it washed up on the beach, Hasedera Temple was built on this location.”を“The Kan’non statue traveled to Nagai-ura on the Miura peninsula (near present day Hatsuse), where it washed up on the beach. It was transferred to this location where Hase-dera was built.”とすることを提案する。“Kamakura, and flowering plants, including over two thousand hydrangeas can be enjoyed”は、“and...”を独立させ、また、日本語説明中にも存在しない、アジサイが見頃の「六月」、「七月」も補い、“Kamakura. From the platform, beautiful flowering plants, including over two thousand hydrangeas in June or July, can be seen.”とすることを提案する。

### 3.4 鎌倉五山

鎌倉には幾多の寺院が存在するが、「鎌倉五山」が最も重要なものと言える。建長寺、円覚寺には、外国人観光客も多い。

#### 3.4.1 建長寺

JR横須賀線北鎌倉駅から徒歩15分のところにある。鎌倉学園に隣接する。

「鎌倉五山」筆頭であるにも拘わらず、他の4寺院に見られる、当該寺院を表題とする総合的な案内板は存在しない。詳しくは、リーフレットなどに任せ、五山における地位、29の総門を始めとする伽藍配置、開祖、所蔵物、30の半僧坊など特筆に値することに限定して記述する。次の英語案内板を、他の4寺院に倣い、入場券売り場付近に設置することを提案する。

*Kencho-ji* [-temple] is ranked the most important temple among the *Kamakura Gozan* (the five principal Zen temples in Kamakura). In its precincts, such temple facilities as the *Sou-mon* ( front gate ), the *San-mon* (main gate ), the *Butsuden* ( Buddha hall ), the *Hattou* ( Zen lecture hall ), and the *Houjou* ( head priest’s living quarters ) are methodically and without any deficiency arranged in a straight line.

It was founded in 1253 by Rankei Douryuu ( a.k.a. Daigaku-zenshi ), who was a Chinese Zen Master. Houjou Tokiyori invited him to found *Kencho-ji*, which became the highest ranking among the *Kamakura Gozan* in 1341. It had produced a lot of great priests including Mugaku Sogen, the founder of *Engaku-ji*.

*Kencho-ji* possesses a lot of cultural properties such as the *Bonshou* ( grand bell ) and the image

29



30



of Rankei Douryuu, both of which are national treasures. Its precincts, including the Zen garden, are designated as national historical scenic sights.

The *Hansou-bou* (*Kenchou-ji's* tutelary Shinto shrine), which is a ten-minute walk after passing through *Kenchou-ji*, has a number of magnificent figures of *Karasu-tengu* (the legendary goblins with beaks of crows) along either-side of the upper staircase leading to the shrine building. (福島作成)

31

### 3.4.2 円覚寺

JR 横須賀線北鎌倉駅に隣接する。31 は山門の前の石段である。「鎌倉五山」二位の寺院である。

歴史などを記す「円覚寺」が表題の総合案内板 32 は、「円覚寺 三宝会」が作成したものである。同種の木製の高札タイプの案内板が寺院内の有名建造物の前にも立てられている。

英語説明は、次の如くである。



Engakuji was founded in 1282. Hojo Tokimune invited Zen Master, Mugaku Sogen to found *Engakuji* and honor the spirits of those who died on both sides of the Battles against the Mongolia. Engakuji is a representative of ancient city Kamakura, preserving buildings designated as cultural properties, including the National Treasures, Shariden and Ogane (Grand Bell), and is loved by the world as a Zen temple to this day. Engakuji is also the heart of the Zen culture of Kanto region, opening the door for men and women of all ages who embrace Buddhism through various Zen Meetings, Sermon Meetings, and Summer Course. It has produced many great people. May Engakuji be loved by many as their “Temple of Spirit.” (円覚寺三宝会作成)

32



建長寺にあわせ、「鎌倉五山」における記述を先行させ、“*Engaku-ji* [temple] is ranked the second temple in importance among the *Kamakura Gozan* (the five principal Zen temples in Kamakura). It was founded in 1282.” とすることを提案する。目的の意味が明らかたため、“and honor” を、“to honor” とする。「戦死した日本人」に平行するものなので、“the Mongolia” は “Mongolians” とする。単に所蔵する、という意味なので、“possess” を使用し、“Shariden” の説明、国宝に指定されていることを加える。そして、2文に分け、“and possesses a lot of cultural properties, including *Shari-den* (reliquary hall) and *Oogane* (grand bell) which are designated as national treasures. It has consistently been loved by the world as a Zen temple to this day.” とすることを提案する。

“Kanto region” を “the Kantou region” とする。表題中ではなく、説明文中であり、特に円覚寺特有なこととも考えられないので、“Zen Meetings, Sermon Meetings, and Summer Course” を “Zen meetings, sermon meetings, and summer courses” とすることを提案する。

### 3.4.3 寿福寺

鎌倉駅から徒歩約15分、鶴岡八幡宮から徒歩約15分のところにある。本通りから外れ、周囲に他の名所が存在しないためか、観光客の数は他の4寺院ほど多く見られない。

「鎌倉五山」三位の寺院である。33は総門のまえである。

歴史などを記す「寿福寺」が表題の総合案内板である、34は「鎌倉市」が作成したものである。

34の案内板中の英語説明は次の通りである。

This temple is the third highest ranked among Kamakura's five principle temples of Zen sect, and was founded in the year after Minamoto Yoritomo's death when his widow Hojo Masako invited Myo-an Eisai to be the founding priest. It was also repeatedly visited by the third shogun of the Kamakura shogunate, Minamoto Sanetomo.

Eisai was the first Zen priest to preach of the Rinzai Buddhist sect in Japan, and is famous for introducing the custom of tea drinking to Japan, as well as for writing "Kissayojoki" —how to stay healthy by drinking tea, etc.

In the hillside behind the temple are situated some "Yagura" (medieval tunnel graves), which shelter five tiered pagodas, said to be that of Minamoto Sanetomo and his mother Masako.

The temple's graveyard is the final resting place of people such as the haiku poet Takahama Kyoshi, and the writer Osaragi Jiro. (鎌倉市作成)

第一文は長すぎる、2つに分割する。分割した第一文については、建長寺、円覚寺のものに合わせ、鎌倉五山における地位を "**Jufuku-ji [-temple] is ranked the third temple in importance among the Kamakura Gozan ( the five principal Zen temples in Kamakura ).**" とする。やはり、鎌倉市作成の「長谷寺」の案内板と同様、“principle”は誤りである。“principal”とするべきである。そして、“**It was founded in the year after Minamoto Yoritomo's death when his widow, Houjou Masako, invited Myouan Eisai to be the founding priest.**”と続ける。

“of the Rinzai Buddhist”を“the first Zen priest”の後に移動し、“**Eisai was the first Zen priest of the Rinzai Buddhist sect to preach in Japan.**”とする。そして、“and is...”を独立させ、“**He is also famous...**”とする。“Kissayojoki”『喫茶養生記(きっさようじょうき)』をハイフンにより意味的に区分し、2.3.1の提案を含め、“**Kissa-youjouki**”とする。そして、案内板英語中のダッシュに続く説明部分を( )内に記し、“**Kissa-youjouki ( guidebook as to how to stay healthy by drinking tea ) etc.**”とする。「実朝と政子の墓といわれる五輪塔」の意味であるので、“**said to be the tombs of Minamoto Sanetomo and Masako, his mother**”とするべきである。“such people as”とするべきである。

33



34



### 3.4.4 浄智寺

北鎌倉駅から徒歩約10分のところにある。本通りに沿っているが、円覚寺、明月院など周囲に複数の集客数が多い名所が存在するためか、観光客の数は多く見られない。

「鎌倉五山」四位の寺院である。

35は浄智寺の総門前の池と石橋である。歴史などを記す、「浄智寺」が表題の総合案内板である36は、「鎌倉市」が作成したものである。

36の案内板中の英語説明は次の通りである。

35



36



Jochiji is ranked fourth among Kamakura's Five Great Zen Temples, and its temple ground, surrounded by rich green vegetation, is designated as a national historical site. At the foot of an old stone bridge in front of the main entrance there is the Kanro no I (Well of Sweet Dew), which is one of the ten wells of Kamakura. Beyond the well is an impressive moss covered set of steps that leads up to the temple and at the top is an unusual temple gate with a bell tower.

The temple is enshrined with three seated Buddha (from left to right, Amida, Shaka and Miroku) that are said to have been created during the Muromachi period and represent the past, present and future respectively. Also, at a corner of the temple grounds there is a cave in which Hotei, who is one of the seven Gods of Fortune in Kamakura and Enoshima, is deified.

An image of Ksitigarbha and the “Sairaian Shuzo Kanjinjo (Temple solicitation)” and such items, which are designated as important cultural properties of Japan, are in the custody of the Kamakura Museum of National Treasures. (鎌倉市作成)

最初の文を二つに分け、鎌倉五山における地位を独立させる。これまでのものに合わせ、“**Jouchi-ji [temple] is ranked the fourth temple in importance among the Kamakura Gozan (the five principal Zen temples in Kamakura). Its temple ground....**”と、浄智寺の地位説明を独立させる。ハイフンを入れ、“**moss-covered**”とする。“leads up to”が存在するので不要である“at the top”を削除し、簡潔に“**with an unusual temple gate and a bell tower**”とすることを提案する。「座像」の意味を明確にし、“**three seated Buddha figures**”とする。「鎌倉・江の島七福神」が一つの固有名詞であるので、“**who is one of the Kamakura Enoshima Seven Gods of Fortune, is deified**”とするべきである。「西来庵修造勸進状(さいらいしゅうぞうかんじんじょう)」を発音可能にするために、“**Sairaian Shuuzou Kanjinjou (temple solicitation)**”とし、「などの品目」の意味であるので、“**other items**”とすることを提案する。

### 3.4.5 浄妙寺

鶴岡八幡宮から徒歩約15分のところにある。本通りから外れているが、鎌倉宮、杉本寺、瑞泉寺などと絡めて訪れる観光客の数が多し。

「鎌倉五山」五位の寺院である。

歴史などを記す、37の「浄妙寺」が表題の総合案内板である38は、「鎌倉市」が作成したものである。

38の案内板中の英語説明は次の通りである。

This temple was built by Ashikaga Yoshikane, a chief supporter of Minamoto Yoritomo since he raised an army at Izu. The founding priest was Taiko Gyoyu. Gyoyu was a high priest, responsible for the conversion of Minamoto Yoritomo and Masako.

It is a Zen temple, the fifth highest ranked among Kamakura's five principle temples. During the Muromachi Period, it was extremely large, with 23 other temples situated within its grounds. Currently the remaining structures are the main gate, the main temple building, the reception hall, and the utility area. The ceremonial teahouse "Kisen-an" and the Zen rock garden were restored in 1991.

Behind the main temple building, is the Kamatari Inari Shrine, which is said to be where the name "Kamakura" is derived from.

第2パラグラフの浄妙寺の地位の説明を第1パラグラフの移動し、これまでの「鎌倉五山」のものに合わせ、“*Jomyou-ji [-temple] is ranked the fifth temple in importance among the Kamakura Gozan ( the five principal Zen temples in Kamakura ). It was built by Ashikaga Yoshikane...*”とする。“*Taikou Gyoyuu. Gyoyuu*”とする。日本人の多くも意味を知らない「塔頭(たちちゆう)」を英文中に入れ、“*Jomyou-ji was extremely large, with 23 tacchuu ( smaller temples ) situated within its grounds*”とすることを提案する。“-an”が「茶室」であることを明示するために、“*The ceremonial Kisen-an [-teahouse ]*”とすることを提案する。名前の起源についての記述であるので、“*where the name "Kamakura" originated*”とするべきであろう。

### 3.5 明月院

境内には39の如く、多くのアジサイの株が見られ、通称「アジサイ寺」と呼ばれる。6月に入ると、多くの観光客が訪れる。円覚寺から徒歩5分のところにある。歴史などを記す、「明月院」が表題の総合案内板である40は、「鎌倉市」が作成したものである。40の案内板中の英語説明は次の通りである。

37



41

38



Meigetsuin started as Meigetsuan hermitage and was built by Tsunetoshi the legitimate child of Yamauchi Toshimichi, a military commander in the region during the late Heian period to honor his death. Around one hundred years later, Saimyoji, which was erected by Hojo Tokiyori, was restored and founded as Zenkoji by the Jishu sect to greet Larod Daolong. Then after another hundred years had passed , in the Muromachi period, Uesugi Norikata, the appointed governor of Kamakura prefecture, renovated the hermitage to a temple and together with Zenkoji it became the leading temple branch completing the restructuring of the temple compound. The abbot's chambers contain the principle image of Avalokitasvara Bodhisattva, the temple hall contains successive founders of the sect, and the left tower holds the grave of Uesugi Norikata, while near the main gate on the ruins of Zenkoji, the grave of Hojo Tokiyori can be found. One of the ten wells of Kamakura ( Tsurubei no I ) is still in use on the compound. Through the round window of the temple, is a garden that brings memories of ancient times, for as the seasons turn, Hydrangea blossom in June, tree leaves in autumn, and weeping cherry blossoms flower in spring. On these occasions, the temple shows us its countenance as the “Temple of Flowers”.

（鎌倉市作成）

39



40



ここでは、「院」が“temple”を、「庵」が“hermitage”を意味することを明示するために、“*Meigetsu-in [-temple ] started as Meigets-an [-hermitage ]*”とすることを提案する。「嫡出子」をあえて述べる必要はないと思われるので、“*Tsunetoshi, the child of Yamauchi Toshimich*”とすることを提案する。“ji”が“temple”を意味することなどや、「おう」の発音を明示するために、“*Saimyou-ji [-temple ]*”、“*Houjou*”、“*Zenkou-ji*”、“*Ji-shuu [-sect ]*”とする。「関東管領」の意味であるので、単に“*, the shogunal deputy,*”でよいと思える。「本尊」の意味であるので、“*the principal image*”とするべきである。文が長すぎる。“*…the temple hall…of the sect*”、“*and the left towe…*”を独立させ、“*…Bodhisattva. The temple hall contains successive founders of the sect. The left tower holds the grave of…*”とするべきである。「瓶の井（つるべのい）が鎌倉10か所の井戸の一つ」であること、“*I*”が「井戸」の意味であることも明示し、“*Tsurube-no-I [-well ], one of the ten wells of Kamakura,*”とすることを提案する。日本語説明は、かなり文語調で、「丸窓の先に広がる往時を偲ばせる庭、巡る季節に六月の姫あじさい、秋の紅葉、春は枝垂れ桜。」としている。「庭を臨む」の意味であるし、倒置構文にせずに、そして、不要と思える“for”に続く重文を独立させ、“*a garden that brings memories of ancient times can be seen. As the seasons turn, hydrangea blossom in June, the leaves on the trees turn red or yellow in the fall*”とすることを提案する。ピリオドを引用符の前に置き、“*Temple of Flowers.*”とすることを提案する。

#### 4. おわりに

特に地名などの英文字表記は、外国人観光客のみならず、道路上では振り仮名に相当し、日本人にとっても重要な意義を有する。従って、案内板の表記は英語圏の人の発音面を重視すべきではない、と考える。これを重視していると思える、特に道路標識に見られる「新へボン式」は、日本語の読み方を明示していない場合がある。特に、「お」「おお」「おう」は区別し、“o”、“oo”、“ou”と表記すべきである。これは、ワープロにおけるローマ字入力の際の綴りに一致するものである。

本稿の提案は、ローマ字入力の綴りを基本とするが、例外的なものがある。例えば、「ち」は“chi”、“ti”、双方可能であるが、日本語の発音に近いものを選択し、“chi”とする。また、「づ」は“du”と表記するはずであるが、発音を重視し、“dzu[du]”と表記することを提案する。つまり、ローマ字入力の場合は、ワープロに記録することを意識した、補足表記となる。また、例えば、鼻音[n]と「な行」などの連続について。関内は“kannnai”と表記するはずであるが、しかし、“n”が3つになり、発音が困難である。“n”が2つでも同様と思われる。従って、「文科省」に従い、“kan'nai”とすることを提案する。

また、「ケープ真鶴」、「江の島シーキャンドル」の例を挙げ、「外国語が構成素である場合」の表記について、提案を行った。「ケープ真鶴」について、“Kehpu Manadzu[du]ru”が考えられるが、外国語を使用したい、という作成者の意図に沿えば、“Cape Manadzu[du]ru”としても、施設名の場合イタリック体を使用する、という約束があれば、実害がないと思われる。

道路標識などではない名所説明の案内板では、概して、日本語案内板と英語案内板では、日本語のものの方が情報量は多い。「鶴岡八幡宮」の日本語説明では源氏の複数の武将名が挙げられているが、普通の日本人に馴染みがあるのは、源頼朝のみであろう。英語説明では、武将名は源頼朝のみである。案内板においては、英語説明に倣い、源頼朝のみ記述し、リーフレット等に詳しく挙げるのが考えられる。本稿は、このような場合、日本語説明と英語説明が「矛盾している」、とはしない。「大仏」の例の如く、特筆に値する事物が一方の案内板に欠落している場合、また、内容的に異なる場合、「矛盾している」、とする。語（句）の運用や文法的な誤りなどは、「矛盾している」とはしない。

鎌倉の名所で見られた当該名所を表題とする案内板において、日本語説明と英語説明、双方とも書き言葉であり、使用語彙や統語などに基づく文体上の差異が認められる例はほとんど見られなかった。しかし、特に、鎌倉市作成の寿福寺、浄智寺、明月院の案内板では、「長すぎる」と思われる例が存在した。日本語では、奇異に感じられないものでも、同一文内でその修飾あるいは説明構造をそのまま英語に移行させると、奇異に感じられる場合がある。

案内板の説明文はリーフレットなどと比較すると、記述量を少なくせざるを得ない。従って、概して、記述は特筆に値するものに限定される。記述内容については、今後さらに検討を加えなければならぬ。

本稿は、原稿枚数が制限されているため、英文字表記の記述が多くを占める結果になった。鎌倉の名所に見られた「一般的な案内板」について、及び、神奈川県の名所の案内板の検討は次の機会に行う。

本稿執筆に際し、武蔵大学客員教授、文教大学非常勤講師の高橋則雄氏には、貴重な情報をいただいた。また、これまでの7稿と同様、本稿についても、ネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。

お二人に感謝したい。

## 註

- 1) 日本語の固有名詞、普通名詞などを英文字表記したものも含む。一般的に「標識」、「表示」と呼ばれているものも、筆者は「案内板」と、一括する。同一案内板中の日本語説明と併記されているものも「案内板」と呼ぶ。
- 2) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視認の容易さ」なども含まれる。
- 3) スクリーチ・タイモン他(1999)では、「大晦日(おおみそか)」を“Oomisoka”、「鐘楼(しょうろう)」を“shourou”と表記している。

“oo”の表記について、“hooligan”などの発音から、英語圏の人々が[u:]と発音する可能性がある。日本旅行のパンフレットなどの中で、日本語の英文字表記では「おお」と発音されることを記す必要があろう。

## 参考文献

- あくざわさきこ(2000)『ふるさと再発見 神奈川県』第2版、東京：ゼンリン
- 文理編集部(2015)『小学3年国語ローマ字』、東京：文理
- Collick R.M.V.、日南田一男、田辺宗一編(1995)『新和英中辞典』第4版、東京：研究社
- Costello R. B., edit. (1991) *Random House Webster's College Dictionary*, Random House, Inc., New York.
- 福島一人(2011.1)「観光英語(1)：国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2011.7)「観光英語(2)：国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2012.7)「観光英語(3)：重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2013.1)「観光英語(4)：重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.1)「観光英語(5)：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.7)「観光英語(6)：世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.1)「観光英語(7)：日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- Hearn, Lafcadio (1932) *Kwaidan*, 東京：審美書院
- ヘボン J. C. 松村明解説(1974)『和英語林集成』第3版(復刻版)、東京：講談社

上森鉄也 (2012) 「基礎演習でのローマ字教育」『流通科学大学教養センター紀要』第2号、神戸：流通科学大学商学部

文部科学省 「ローマ字のつづり方」(オンライン)、入手先 ([http://www.mext.go.jp/b\\_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html](http://www.mext.go.jp/b_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html)) (2014.10.15 参照)

NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「ヘボン式ローマ字」の基礎知識」(オンライン)、入手先 (<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>) (2014.10.15 参照)

新村出編 (2008) 『広辞苑』第6版、東京：岩波書店

スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編 (1999) 『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館

柴田正昭 (2010) 『外国人のためのローマ字日本語辞典』第三版、東京：東京堂

小学教育研究会 (2015) 『国語自由自在』、大阪市：受験研究社

梅棹忠夫 (2004) 『日本語の将来：ローマ字表記で国際化を』、東京：日本放送出版協会

渡邊敏郎他編 (2003) 『新和英大辞典』第5版、東京：研究社

*Wikipedia, the free encyclopedia*. “Kamakura, Kanagawa”, “Hakone, Kanagawa” Retrieved April 4, 2015, from <http://en.wikipedia.org/wiki/Itsukushima>

## URL

「観光英語 (1)」『情報研究』44号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ440004>

「観光英語 (2)」『情報研究』45号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ450003>

「観光英語 (3)」『情報研究』47号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ470003>

「観光英語 (4)」『情報研究』48号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ480005>

「観光英語 (5)」『情報研究』50号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ500004>

「観光英語 (6)」『情報研究』51号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ510002>

「観光英語 (7)」『情報研究』52号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ520005>

